

GIGAスクール構想のもとでの 高等学校家庭科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの高等学校家庭科の指導において ICTを活用する際のポイント

(1) 高等学校家庭科で育成を目指す資質・能力とICT活用の関係性を理解する

家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、**実践的・体験的な学習活動**を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、**生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。**

思考力、判断力、表現力等

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

学びに向かう力、人間性等

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度**を養う。**

コンピュータや情報通信ネットワークの活用

- 指導に当たっては、コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークなどの活用を図り、情報の収集、処理、分析、発信などを通して生徒の学習意欲を喚起させるとともに、学習の効果を高めるような積極的な工夫をすることが必要である。**家庭科では、特に、生活に関わる外部の様々な情報を収集して活用することやデータの整理など指導の各場面において、コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークなどを積極的に活用し学習の効果を高めるようにする。**
- 実験・実習を行うに当たっては、被服実習室、食物実習室、家庭総合実習室などにおける施設・設備の定期点検及び整備を行い、安全管理や衛生管理を徹底するとともに、**生徒の学習意欲を喚起するよう、資料、模型、視聴覚機器、情報通信機器などを整備し、学習環境を整えることが必要である。**（一部抜粋）

※ 「家庭基礎」及び「家庭総合」の各科目の指導計画の作成に当たっては、各科目の総授業時数のうち、10分の5以上を実験・実習に配当するようにする。その際、実験・実習には、調査・研究、観察・見学、就業体験活動、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流活動、消費生活演習などの学習活動が含まれる。

GIGAスクール構想のもとでの高等学校家庭科の指導において ICTを活用する際のポイント

(2) 一連の学習過程の中で効果的にICTを活用する

生活の課題
発見

家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定する場面

- 体験的な学習が困難な場合でも、動画視聴やインターネット等を活用することにより、生徒が学習対象について具体的にイメージをもつことができ、どのような課題があるのかを認識させることができる。

解決方法の
検討と計画

解決策を構想し、解決の見通しをもって計画を立てる場面

- 事前に立てた計画を修正したり、学習を通じて自分の考え方がどのように変容したのかを客観的に把握したりすることが容易となる。
- インターネット等を活用して情報を収集・整理したり、ウェブ会議システム等を通じて討論することで他者からの意見等も踏まえて、計画を評価・改善し、最善の方法を判断・決定することができる。
- シミュレーションソフト等を用いることで、具体的に考察することが可能となる。

課題解決に向けた
実践活動

生活に関わる知識及び技能を活用して、調理・製作等の実習を行う場面

- 発展的な学習資料の提示や動画等の再生により、学習の定着や興味・関心、進度に応じた活用が可能となる。
- 説明時間等の短縮により、演習や個別指導の時間を確保することができる。

実践活動の
評価・改善

実践した結果を評価したり、改善策を検討したりする場面

- 調査した結果を表計算ソフトなどを利用して分析したり、プレゼンテーションソフトを用いてまとめて、課題解決に向けた取組を発表させることができる。